

「共生キャリアへの道のり」—理工系女性研究者として、母として、教育者として—

中谷 敬子(NPO 法人メイカーズクラブ・代表)

1 | 原点 — 挫折がくれた出発点 大学入試の失敗がすべての始まり(18～22 歳頃)

- 学力不足で志望大学には届かず、葛藤の後、物理を学ぶ道を選んだ。
- 大阪女子大学で“女性学”と出会い、「社会に貢献する女性像」を学ぶ。
- 合気道との出会いで「心の持ち方が人生を決める」ことを体感。

「笑へ」——合宿で引いた一枚の色紙が、今も私の原点。(22 歳頃)



日本キャリアカウンセリング研究会
会報連載記事(2015)

2 | 転換 — 理論物理から工学へ

- 実験がうまくいかず、理論計算へ。数値解析の魅力にのめり込み、コンピュータに没頭。
- 「できなくても努力することが大切」と努力を免罪符にする自分への指導教員からの痛烈な批判。

“努力は大切なスタートだが、できるようになるまで考え実践することが大切。”

3 | 葛藤 — バブル期の就職と理想の狭間で(23～27 歳頃)

- バブル景気まただ中、憧れの研究職に就いた。人と環境に恵まれているのに満たされない心。
- 自分の描く将来のキャリアパスにと自分の能力の大きな差に苦しんだ。
- 「なぜ？」を追い求めたいのに、仕事は「答えを出すこと」が目的になっていった。
- 社会の波に乗ったはずが、いつのまにか自分を見失っていた。

“安定の中で感じた違和感と不安を、見ないふりはできなかった。”

4 | 挑戦 — 会社を辞めて大学院へ(27～30 歳頃)

- 研究職に恵まれながらも「理論への探求心」が消えなかった。
- 周囲の反対を押し切り退職、「破滅的だ」と言われながらも再進学。
- 北川浩先生(阪大)との出会いが転機に。

「通らさぬは通すがための道普請」——師からの言葉が支えとなる。

5 | 両立 — ワークライフ“アンバランス”の中で(30 代前半)

- 博士号取得。結婚。就職困難を経て大阪府立大学助手に採用。
- 第 1 子出産後も研究を続けるが、深夜に大学へ、ベビーシッター依頼、家でも研究…限界の連続。
- 1999 年、在外研究員として渡米。アメリカで見た自然体の研究者たちに衝撃。
- 第 2 子を現地で出産、生命の危機を経て、大切なものの価値観が変化。
- 支えてくれた現地家族との交流のなかで、徐々にありたい自分を知る。

“幸せとは、努力の上にだけ成立するものではなく、自分らしい日々の中にある。”

6 | 再出発 — 日本での逆カルチャーショック(36～38 歳頃)

- 帰国後、母親に「母親はしたいことを我慢するべき」と叱責され、文化の壁を痛感。
- 学会に子連れ参加、研究と子育ての両立を“家族のかたち”として模索。

“親も子もみんなでハッピーに暮らしたい。”

7 | 気づき — 研究者から教育者へ(39～41 歳頃)

- 第 2 子との関りに悩み、アドラー心理学の“対等な共同体”、“勇気づける関わり”を学び救われる。
- 日本女性技術者フォーラム参加、「Becoming Leaders(しなやかにプロフェッショナル)」共訳。
- 女性技術者たちとの出会いから、“一人より皆で”の価値観を得る。

「競うより、支え合ってどう生きる」が研究テーマになった。



8 | 転換 — キャリア支援研究への移行(42～43 歳頃)

- ・ 仕事も子育ても家庭も自分も全部40歳の自分が許せない。
- ・ 40 歳を前に人生も研究の目的を見失い、「評価」に縛られる自分に気づく。
- ・ 2010 年、女性研究者のキャリア支援をテーマに科研費採択。機械工学からキャリア開発・教育へ“専門転換”。

“「自分の生き方そのものが研究になっていく」実感。”

9 | 喪失と再生 — 専門転換のあとで(43～45 歳頃)

- ・ 機械工学からキャリア支援研究への移行で、これまでの積み上げが一度に崩れたように感じた。
- ・ 専門を持たない研究者である自分に友人もいないと思い込み、学会にも社会事業に行けなくなった。
- ・ 共に活動していた仲間の活躍を見るのがつらく、活動的には引きこもったようになっていた。

“自分を肯定できず、存在の拠りどころを失って過ごした時間は苦しかったが、あの静けさが、今の自分の力の一部になっている。”

10 | 共生 — 女子学生チーム ROSE の誕生(46 歳頃～)

- ・ 女子には人生の予習が大切な思いが形になっていく。2013 年、女子学生有志チーム「ROSE」を支援。
- ・ 「女性だけ」がメインではなく「共に学ぶ」場に意義。
- ・ キャリアカウンセラー今野先生の「部活でもやってみたら？」という言葉が教育者・研究者・支援者としての自分が重なる瞬間に。

“誰かの一言を受けとめ、小さく一歩踏み出したところから始まる。続けることで、形になっていく。”

11 | 創発 — NPO 法人メイカーズクラブ設立(52歳頃～)

2021 年、仲間 10 人と NPO 法人メイカーズクラブを設立。

- ・ 理念:「自分らしく生きるマインドセットを育む創造ものづくりの場」
- ・ 子ども・若者・地域・企業が“共に学び合う”環境を構築。
- ・ 匠サロンや夏祭りなど、世代と分野を超えた共育を展開。

“誰かの挑戦を応援することが、自分の挑戦になる。”

12 | これから — 共生キャリアという生き方(現在～)

- ・ ROSE やメイカーズクラブの活動を通じ、“支える人”から“共に歩む人”へ。
- ・ 技術を受け継ぐだけでなく、「生き方」を共有する時代へ。
- ・ これからも、「自分らしく、誰かとともに生きる」キャリアを実践する。

共生キャリアとは、自分を活かし、誰かとともに成長する生き方。

誰かの未来の光をいっしょに探していると、その光が、いつの間にか自分の道も照らしている。

中谷敬子 NPO 法人メイカーズクラブ・代表／大阪公立大学高専・教授
理工系女性技術者のキャリア発達プロセス研究に従事。企業研究員、大阪公立大学工学部助手を経て現職。機械工学領域で、第 5 回 瀬口フロンティア賞(NCP 研究会・機械の強度と形態研究懇話会／日本機械学会関西支部)(1994)、日本機械学会賞 奨励賞(研究)(2001)、日本材料学会賞 学術奨励賞(研究)(2006)を受賞。男女共同参画・青少年育成の領域で、内閣府男女共同参画局「女性のチャレンジ支援賞」(2022)、大阪府知事賞(男女共同参画部門)(2023)、大阪商工会議所第 3 回 活躍する女性リーダー表彰(ブルーローズ表彰)(2025)を受賞。協働型の理工系キャリア発達場の場づくりに注力。大阪公立大学高度人材育成推進センターfledge の支援を得て NPO 法人メイカーズクラブを設立、代表を務める(兼業、2022～)。所持資格は、博士(工学)、2級キャリアコンサルティング技能士(国家資格)、2級家具製作技能士(家具手加工作業)(国家資格)、防災士。日本折紙協会認定講師。4 人の息子の母。